

The Tara Ocean Foundation

©NPO法人日本火星協会

| | | | |
|----------------------|---|--|--|
| 名称 | Exploring the Ocean to understand, Sharing to change | | |
| 国籍及び場所 | フランス、活動場所は北極から南極までの幅広い海洋 | | |
| 開発機関 | タラ海洋財団(フランス) | | |
| 目的 | 気候変動による生態系の危機が海に与える影響を観察、研究、理解し、人類とその環境の両方を脅かす危険性の認識に貢献すること。 | | |
| 施設カテゴリー | 2本マストの帆船(スクーター)で海洋調査を実施する。 | | |
| 体験可能な危険状態 | なし。 海洋環境保護の啓蒙を目的としており、火星探査等の閉鎖環境体験が提供される訳ではない。 | | |
| 施設概要 (開発年、規模、特徴等) | スクーター：1990年以前の建造。(32年以上が経過しており代船の検討が必要となっている。) 総トン数：120t、長さ36m×幅10m×喫水2.5m/機関方式：帆走(27mマスト2本、面積400m ²)、ディーゼルエンジン2基(出力350hp x 2)/航続距離：5,000マイル(8,000 km) | | |
| 施設関連画像 |  | | |
| 実施されたプログラム/ミッション | <p>1. 生物多様性をよりよく保護するために、生物多様性についてさらに学ぶ (危機に瀕している生態系) 人口とインフラに影響を与える水没の問題を超えて、実際の気候緊急事態は生物多様性を失うリスクであり、それは効果的な持続可能な開発によってのみ対処することができる。</p> <p>2. 海洋生物多様性を汚染から保護するための戦い (プラスチックで窒息した生物多様性) 北極から南極まで、川の中、海岸近く、海の外など、それは否定できません。私たちの汚染はどこにでもあります。それぞれの表面プランクトンネットや堆積物に見られるマイクロプラスチックから、目に見えないより陰湿な化学汚染まで。現象の規模はそれを世紀の問題にします。 海洋は、この汚染の解決策が問題の原因である陸上にあることを示しており、持続可能な開発、特により質素で循環的な経済の重要性を毎日私たちに思い出させます。</p> <p>3. 将来への影響を評価するための変更の特定 (地球温暖化の警告サイン) この惑星の北極の端にあるこの部分は、世界の他の部分よりも3倍速く温暖化しています。海水、塩辛い氷の細かい層が徐々に消えていきます。それは非常に速く溶けているので、私たちは間違いなくそれを保護したり、それに依存するユニークな海洋生物多様性を知る機会を持っている最後の世代です。</p> | | |

| | |
|-------------|--|
| Key numbers | <p>・12のミッション/・10万種の微細な海洋生物が明らかに/・1億5000万の遺伝子が世界の海洋で発見された/・特徴づけられた200,000のウイルス/・世界の海を450,000km航海/・常に船内にいる：6人の科学者、6人の船員、1人の芸術家、1人のジャーナリスト/・収集された15万サンプル/・主要なジャーナルの8つを含む250の科学出版物：自然、科学、細胞/・6万人の子供たちがフランスと世界中からタラを訪れました/・25万人の子供たちが教室で海について学びました/・2004年以来、200万人がタラの展示会を訪れました/・年間予算350万ユーロ (453, 250, 200円)</p> |
| 参照資料 | <p>HP : https://fondationtaraocean.org/en/home/ 年次報告書 : https://fondationtaraocean.org/en/foundation/annual-reports/ 出版物 : https://sunagawalab.ethz.ch/web/taraoceans.php Wikipedia : https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%BF%E3%83%A9_(%E3%82%B9%E3%82%AF%E3%83%BC%E3%83%8A%E3%83%BC)</p> |